



笑顔いっぱい大北小 みんなで育つ大北小

大北小だより

12月号

平成28年11月30日

練馬区立大泉北小学校

校長 内木 勉

<http://www.ooizumi-n-e.nerima-tky.ed.jp/>

歌 の 力

校長 内木 勉

54年ぶりの11月の積雪にどろんこ山も真っ白に雪化粧し、一気に冬本番を迎えました。早いもので平成28年もあとひと月を残すだけとなりました。この時期になると、一年の様々な出来事が思い出されます。

この一年間を振り返った時、忘れることができないのは子供たちの素晴らしい歌声です。4月に大泉北小学校に着任した私を温かく包み込んでくれたのは子供たちの素晴らしい校歌の歌声でした。始業式での校歌を聞きながら、何て素晴らしい歌声なのだろうと心が震えたことは忘れることができません。新しい学年、新しい教室から聞こえてくる元気な歌声。10月の6年生の武石移動教室では、バスが雲を抜け眼前に雲海が広がると、自然とバスの中に歌声が響き出しました。11月の連合音楽会では、6年生が会場の練馬文化センターに素晴らしい歌声を響かせてくれました。校長室にいと、合唱団の子どもたちの朝練習の歌声、教室からは1・2・3年生の元気な歌声が、音楽室からは12月の合唱発表会に向けた4・5・6年生の歌声が聞こえてきます。大泉北小学校にとって、歌はとても大切なものであることを実感しています。

私たちは楽しい時に歌を口ずさみます。歌うことで苦しい気持ちや怖い気持ちを吹き飛ばそうとします。心が傷ついたり疲れたりした時に歌に元気づけられたこともあると思います。歌には人を癒やし、安心させ、勇気づけ、元気づける力があるのです。さらに歌声をひとつにしていくことで、歌の力は大きなものとなっていきます。歌声をひとつにするためには、互いの歌声の響きを確かめ合い、心を合わせる必要があります。互いのよさを認め合い、互いのよさを発揮していくことで、歌声はひとつとなり、歌の力は大きく強いものとなっていきます。大泉北小学校の子供たちの歌声を聞いたたびに、歌の力の素晴らしさを感じています。

12月16日(金)には4・5・6年生、大泉北中学校の2年生が集まり合唱発表会が開かれます。2学期、そして平成28年の締めくくりとして、子供たちの歌声をじっくり楽しみたいと思っています。子供たちの素晴らしい歌の力が、たくさんの方々を元気づけ、新しい年への希望を胸に灯らせてくれることを願いながら…。

12月行事予定表

◎今月の生活目標 身のまわりの整理整頓をしよう じょうぶな体をつくろう

日	月	火	水	木	金	土
11/27	11/28 全校朝会 クラブ⑪	11/29 クリーン運動	11/30 児童集会 4時間授業 (教育会一斉研究日)	1 クリーン運動予備日	2 社会科見学3年	3
4	5 全校朝会 委員会⑧	6 マラソン大会6、2、4年 保護者会 2年 13:40~ 4、6年 14:50~	7 音楽朝会 4時間授業 (小中一貫合同研究会のため)	8 マラソン大会5、1、3年 保護者会 1、3年 13:40~ 5年 14:50~	9 安全指導 社会科見学5年	10 土曜授業公開 防災教室5年 租税教室6年
11	12 全校朝会 避難訓練 防災授業6年 クラブ⑫	13 マラソン大会予備日	14 けやき班集会 マラソン大会予備日	15	16 B時程 合唱発表会 4、5、6年 13:30~	17
18	19 全校朝会 委員会⑨ (1月分)	20	21	22 2学期終業式 給食終 5時間授業 (給食後大掃除)	23 天皇誕生日	24
25	26 冬季休業日始	27	28	29 学校閉校期間 機械警備 学校内入れません	30 学校閉校期間 機械警備 学校内入れません	31 学校閉校期間 機械警備 学校内入れません

マラソン大会

体育的行事委員会 星野 勝

大泉北小学校では、年間を通して、児童の体力向上に取り組んでいます。児童は、11月17日より、中休みのマラソンタイムや学年で外回りを走り練習してきました。冬に備えて、寒さに負けない体力を養うことと、自分のペースを知り、自己の目標に向かって最後まで頑張る力を養うことをねらいにしています。安全にマラソン大会を行うためにも、ご家庭での健康管理もお願いしております。マラソン大会当日は練習してきた成果を発揮できるように、多くの保護者の方の声援をよろしくお願いいたします。

転んだ子供

副校長 大野 正人

先日、帰宅途中の電車でのことです。勤め人風の父がスマートフォンを片手に持って、それを見ながら小さい子が寝ているベビーカーを押し、その後から3歳ぐらいの女の子(姉でしょうか)が乗ってきました。ところが、電車に乗り終わった後に女の子が転んでしまいました。すると、父は「何やってんだよ！」と言いました。女の子は父の方を見上げながら黙って立ち上がり、手を繋いでもらおうと自分の手を伸ばしましたが、父は繋ぎませんでした。親子は次の駅で降りたので、その後は分かりません。

見ていた私は、何で「大丈夫？」と言えなかったのかな、女の子の心が心配だなという思いとともに、父親に娘を思いやる余裕がなかったのかな、とも考えました。でも、画面を見ていて「何やってんだ！」はないと思います。ただ、自分を振り返ってみると、いつも「大丈夫？」ではなかったと思います。人のことを言うは易く、行うのは難しいです。積み重ねていかなくてはと改めて思いました。

大北小でも、11月のふれあい月間をもとに人に優しい言葉をという指導を行っています。ご家庭でも、下校しましたら今までと変わらず温かな言葉をかけてください。